

エネルギー分野の戦略重点科学技術白書

目的

- 総合科学技術会議が進捗状況を把握すること
- 研究開発に対する各府省のコミットメントと説明責任を明確にすること
- 課題の意義や成果を“見える”ようにし、国民に発信すること

(対応)

- 各府省が作成した資料(目標や体制等の施策のフレームワークから事業の実施、新規重要施策、成果の状況、今後の課題まで網羅)を総合科学技術会議(エネルギーPT)に定期的(年1回程度)に報告する。
- 国民への情報提供に資するため、エネルギー分野の戦略重点科学技術の紹介資料(パンフレット又は白書的なもの)として活用できるものとする。

報告にあたって基本とする考え方

(問題意識)

資料作成にあたり、総合科学技術会議として重視すべきものを明確にし、報告事項を設定すべきではないか。



研究・技術開発の主な役割

社会・国民への成果の還元
我が国の科学技術の発展
研究者・技術者の育成・維持
技術や研究に対する社会の理解の増進

総合科学技術会議 エネルギーPT

報告様式

定期的な報告

Websiteで
公開

各府省 各機関

Aプロジェクト

Bプロジェクト

導入補助等の
施策

情報発信等
の諸活動

各施策に要求される考え方

1. 社会(産業界を含む)・国民から見た高パフォーマンスかつ良質な施策展開
2. 施策実現に向けた各府省のリーダーシップ
3. 的確な目標や研究・開発ロードマップとそれを実現する推進体制の構築・改良
4. 知の創出・融合や情報発信・理解増進のための各層による対話・交流
5. スピード感あふれるマネジメントの実施
6. 官民の適切なパートナーシップ
7. 計画と成果に対する透明性・説明責任の重視

報告の体系

- 各戦略重点科学技術の活動要素を施策フレームワーク(Plan)、事業・活動(Do)、成果・今後の課題(See)で分類・整理し、把握・理解しやすいように整理する。

概略 戦略重点科学技術の説明・概要 (分野別推進戦略の記述抜粋) 対象プロジェクトリスト

P

施策の総合フレームワーク

- 情勢分析
- 実行体制
- 個別目標
- 全体の研究開発スケジュール
- 技術ロードマップ

D

事務・事業のマネジメント

- 施策マネジメントの活動
- プロジェクトマネジメントの基盤整備
 - 国内外の情報の収集
 - 新規の研究開発事業
 - 既存の研究開発事業
- 関連研究開発プロジェクトの取組
 - 関連施策の取組
- 研究者・技術者の育成・維持
- 研究者や国民への情報発信
- その他の推進方策の取組み
- 施策評価、事業評価の実施

S

総合的な結果・成果(パフォーマンス)、今後の課題・計画

- 活動の総括、知の産出と表彰等の評価、実用化・社会適用、規制、標準への反映
- 今後の課題と計画